

## 平成 28 年度大台ヶ原自然再生事業植生モニタリング等業務 メッシュ調査結果について

### 1. 目的

大台ヶ原の主要な下層植生であるササ類（ミヤコザサ、スズタケ）およびコケ類の現在の分布状況を把握し、過年度の調査結果と比較することにより、大台ヶ原全体の下層植生の変化を把握するために、メッシュ調査を実施した。

### 2. 調査手法

#### ●調査メッシュ

大台ヶ原全体を基準地域メッシュ（3次メッシュ）で区分し、各メッシュを更に 100m×100m のメッシュに細区分したものを調査メッシュとした。大台ヶ原全体を 727 メッシュに区分した。

#### ●調査手法

調査はメッシュ全体をひとつお見通せるように踏査し、調査メッシュごとにササ類については被度、平均稈高、開花、テングス病、枯死稈の有無、コケ類については被度を記録した。

被度については＋～5 の 6 段階で記録した。

メッシュ内に防鹿柵が設置されている場合は、防鹿柵内外に分けて各項目の調査結果を記録した。

### 3. 調査結果

#### （1）防鹿柵外における下層植生の変化

##### 1）被度の変化

##### ①ミヤコザサ

平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるミヤコザサの被度クラス分布を図 1 に、ミヤコザサが確認されたメッシュの割合の変化と被度クラス別メッシュ数の変化を図 2 に示した。平成 20 年度からの防鹿柵外のミヤコザサの被度の主な変化を以下にまとめた。

- 正木峠の南側は被度クラス 5 のメッシュが増加している。
- 三津河落山と経ヶ峰の間の尾根や、牛石ヶ原では被度が低下している。このような場所ではニホンジカの食圧が非常に高く、ミヤコザサが衰退しているものと考えられる。
- 平成 20 年度から 24 年度にかけてミヤコザサの確認メッシュ数は増加しているが、平成 24 年度から 28 年度には大きな変化は見られない。

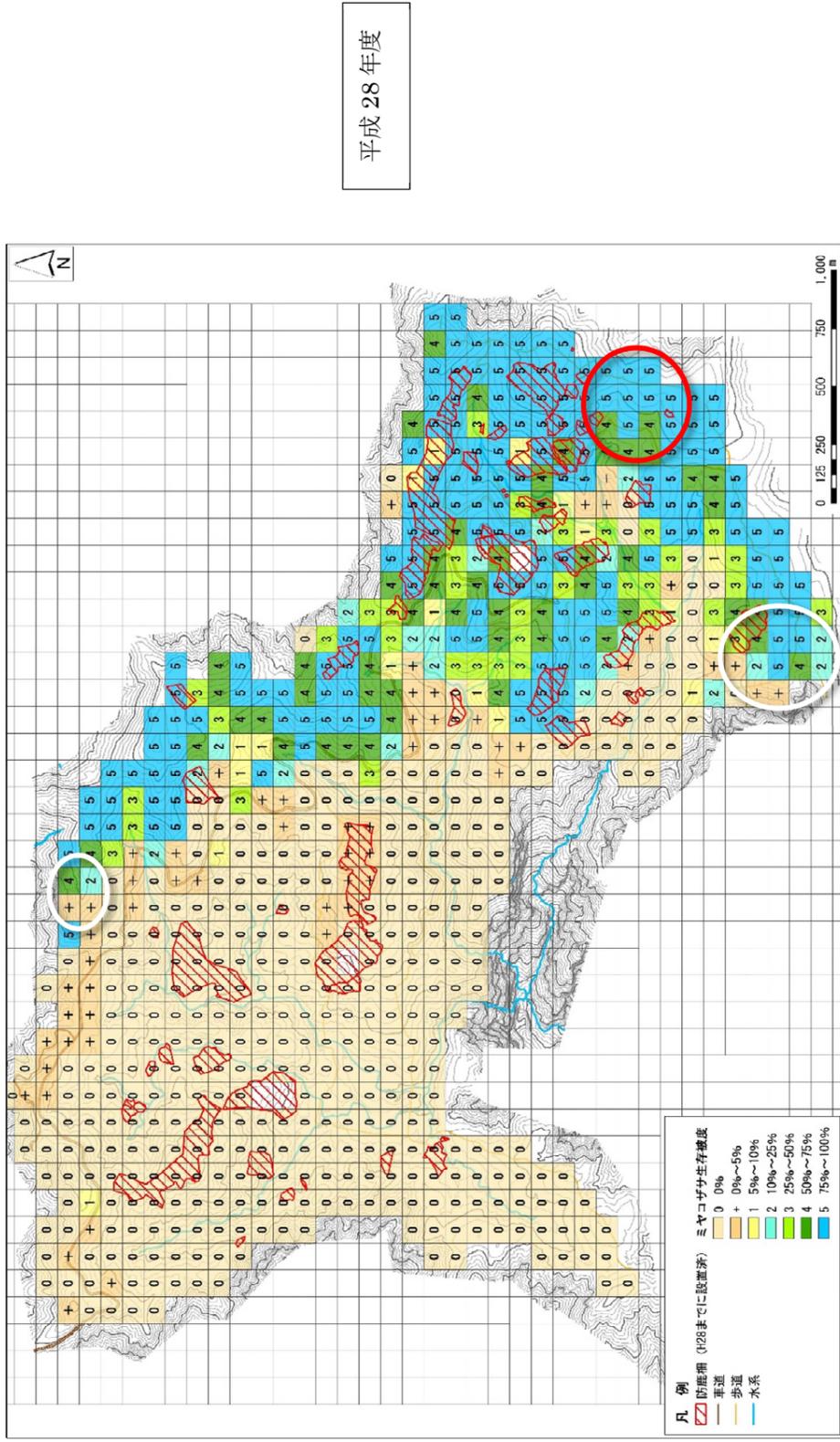
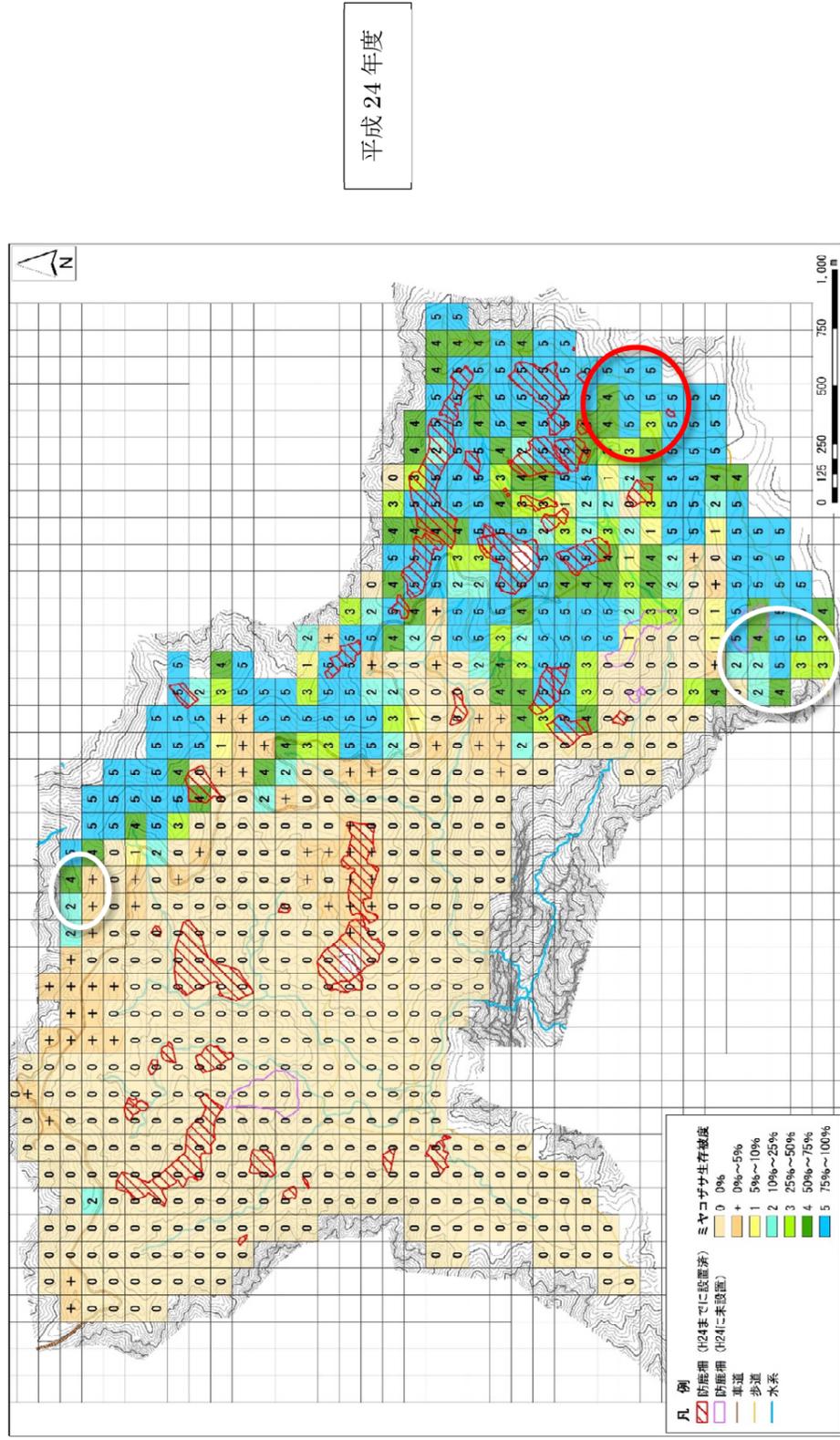
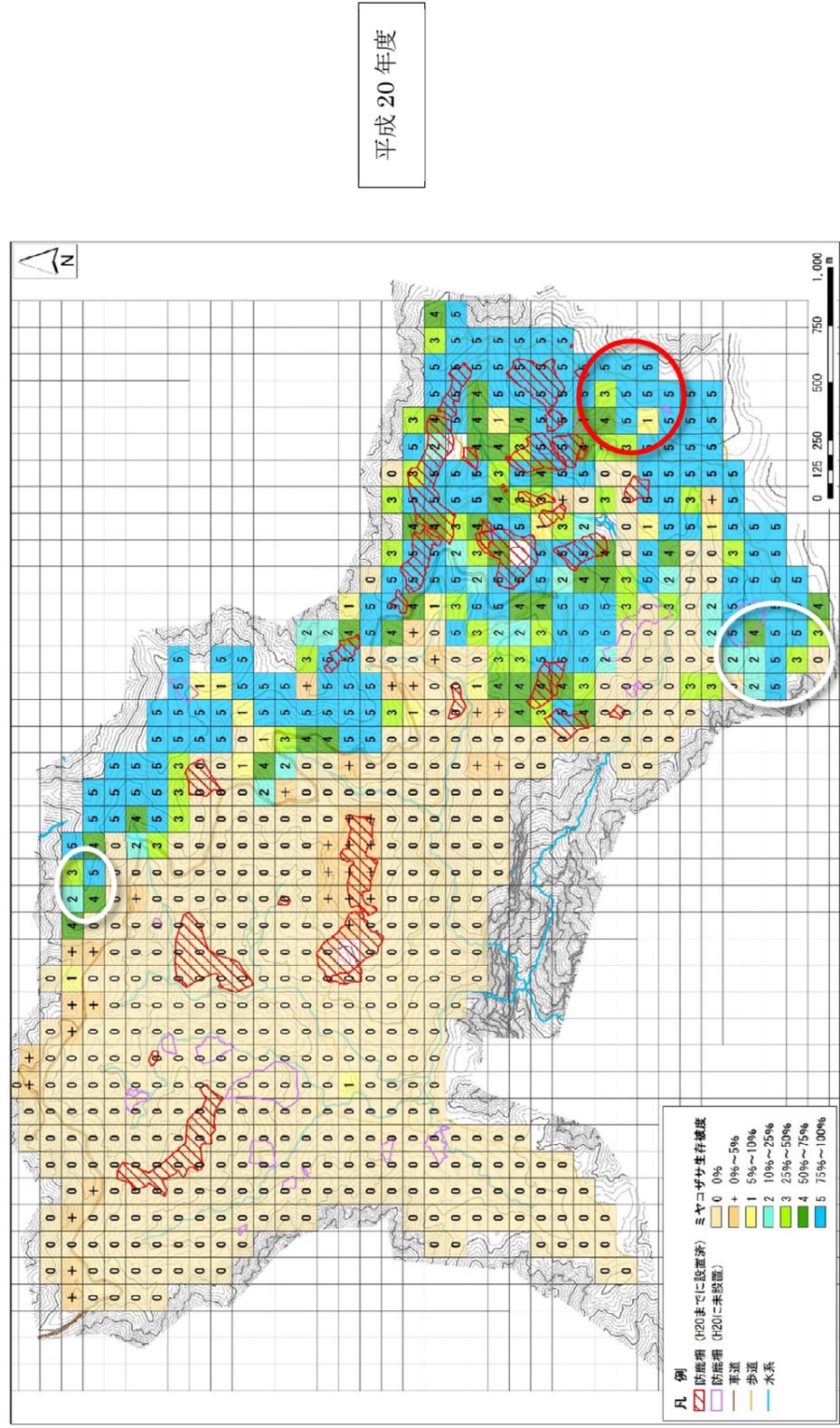


図1 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるミヤコザサの被度クラス分布

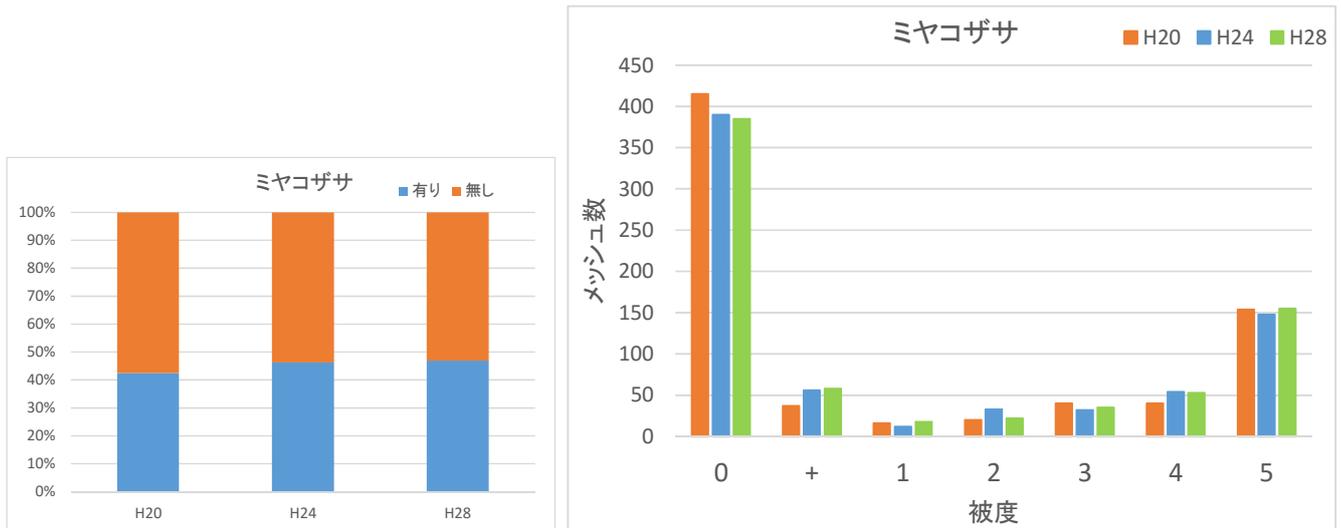


図2 ミヤコザサが確認されたメッシュの割合の変化と被度クラス別メッシュ数の変化

## ②スズタケ

平成20年度、24年度、28年度の防鹿柵外におけるスズタケの被度クラス分布を図3に、スズタケが確認されたメッシュの割合の変化と被度クラス別メッシュ数の変化を図4に示した。

平成20年度からの防鹿柵外のスズタケの被度の主な変化を以下にまとめた。

- 経ヶ峰下のドライブウェイ沿い、三津河落山と経ヶ峰の間の尾根ではスズタケの被度が低下している。
- 苔探勝路から川上辻にかけてのエリアや、シオカラ谷の南側では、平成20年度から24年度の間スズタケの被度は低下したが、平成24年度から28年度の間はスズタケの被度は回復傾向にある。
- スズタケの確認メッシュ数は平成20年度から徐々に増加している。特に東大台を中心に被度クラス+のメッシュが増えてきている。このことは東大台においてニホンジカの生息密度が低下してきたことによる効果であると考えられる。

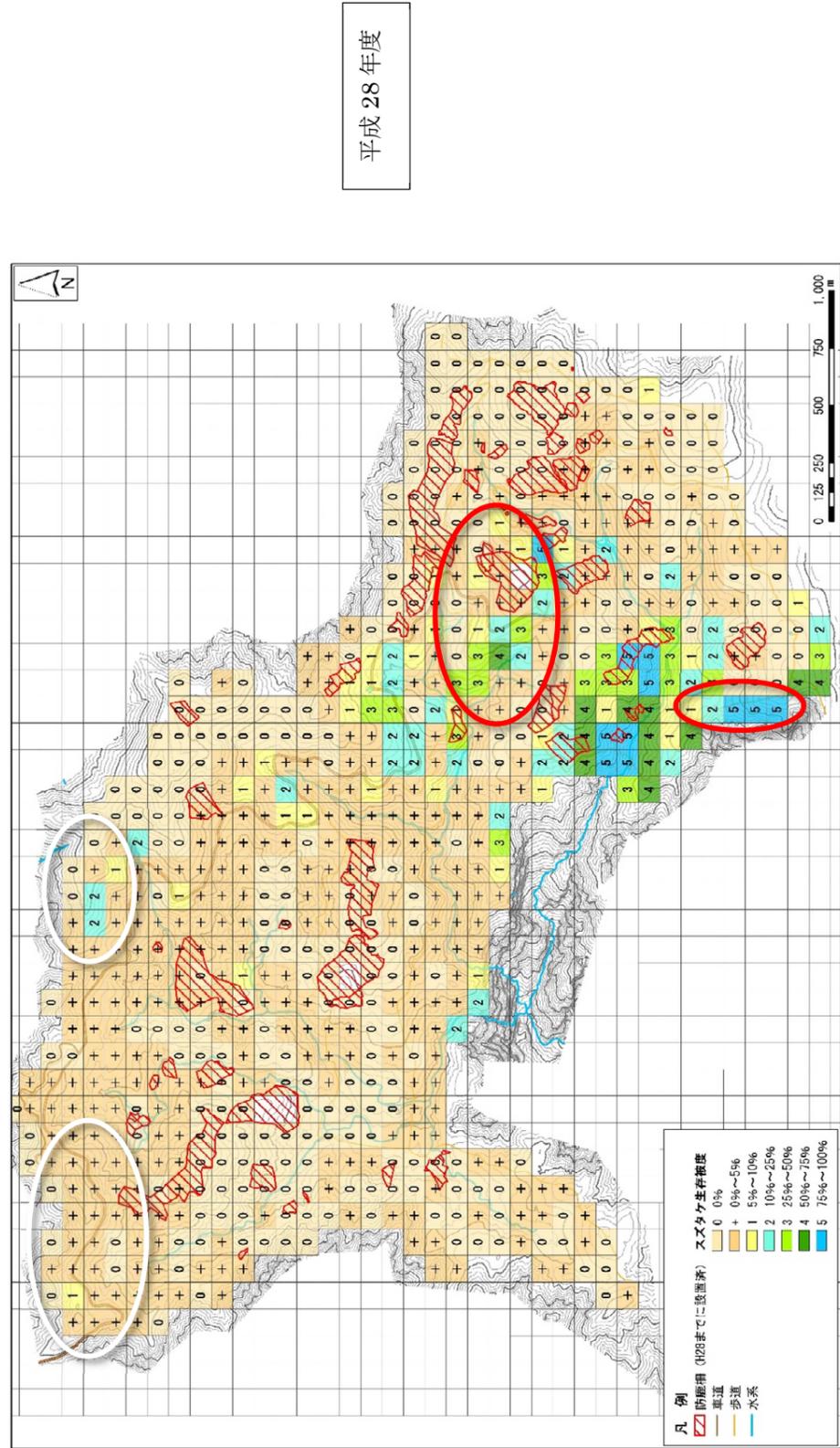
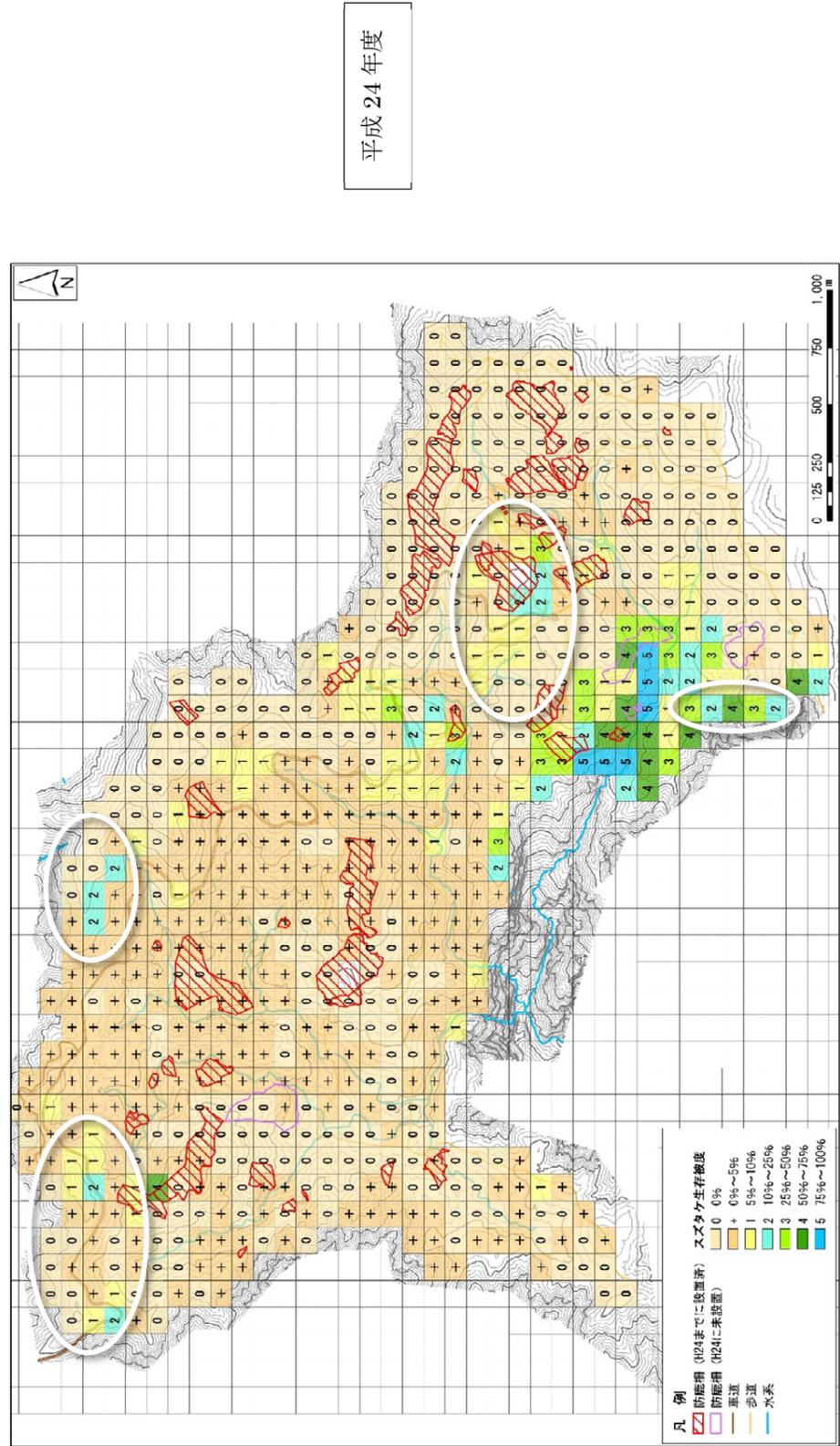
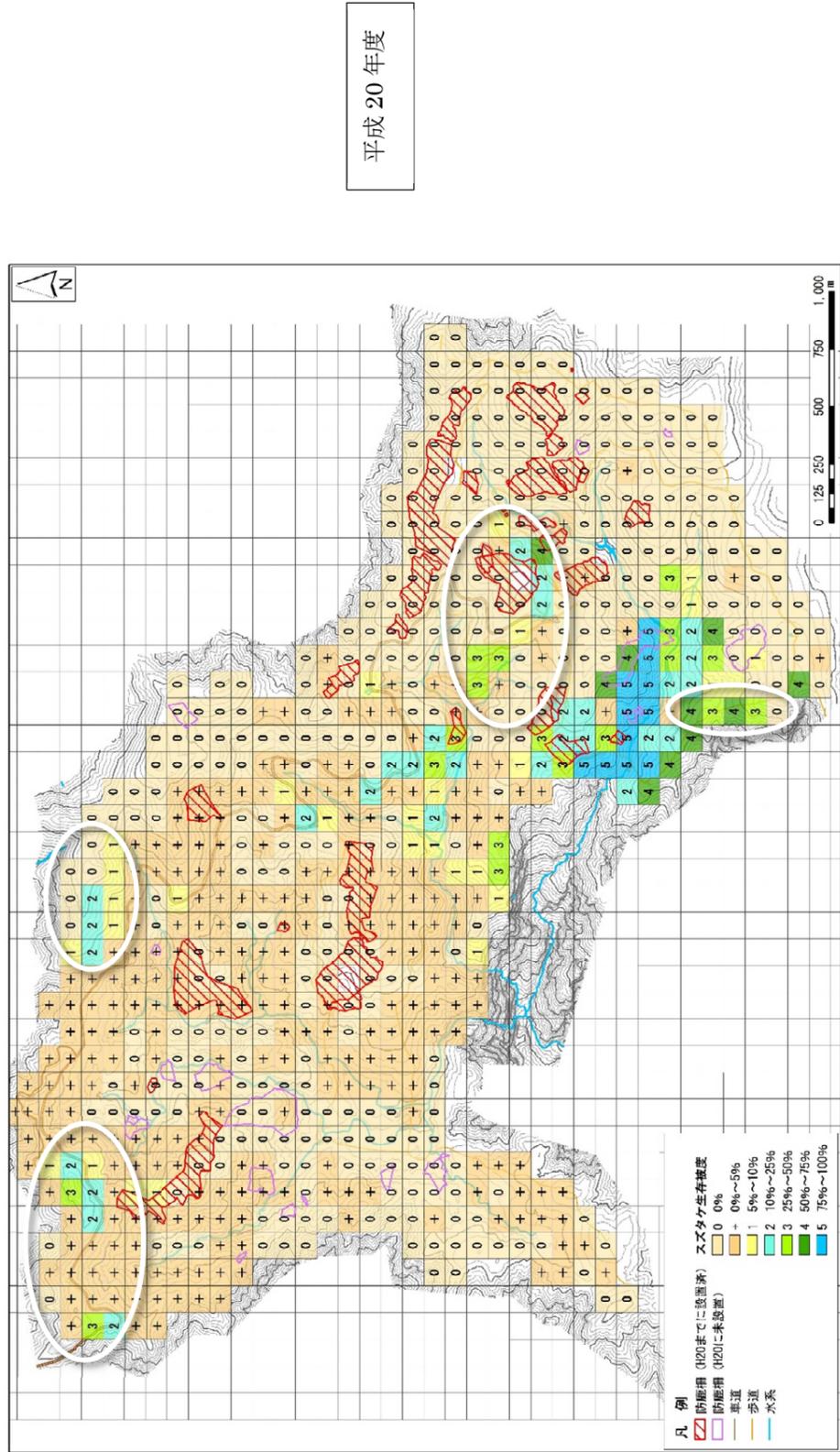


図 3 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるスズタケの被度クラス分布

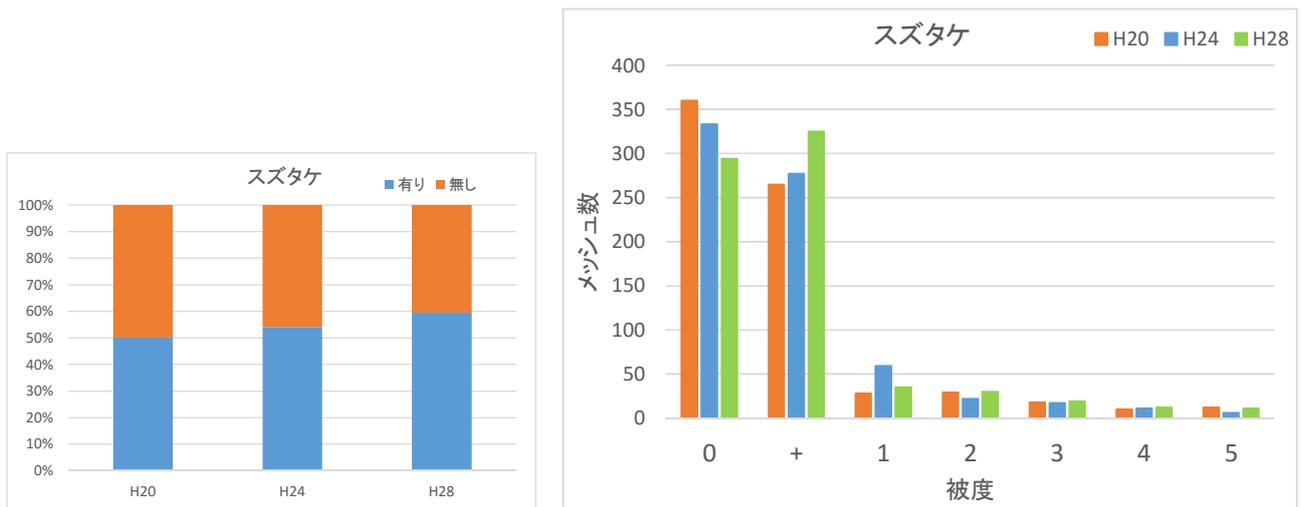


図 4 スズタケが確認されたメッシュの割合の変化と被度クラス別メッシュ数の変化

### ③コケ類

平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるコケ類の被度クラス分布を図 5 に、コケ類が確認されたメッシュの割合の変化と被度クラス別メッシュ数の変化を図 6 に示した。

平成 20 年度からの防鹿柵外のコケ類の被度の主な変化を以下にまとめた。

- コケ類の確認メッシュ数にはほとんど変化が見られないが、平成 24 年度から 28 年度の期間で被度クラス 2, 3 のメッシュが大きく減少し、被度クラス+のメッシュが増加している。大台ヶ原全体でコケ類の被度の低下が進んでいるといえる。
- 林床のササ類の被度が増加すればコケ類の被度が低下するものと考えられるが、ササ類の被度が低い場所でもコケ類の被度が低下している。コケ類の被度が低下した原因として乾燥化や、下層植生が少ない斜面での表土の流出などが考えられる。

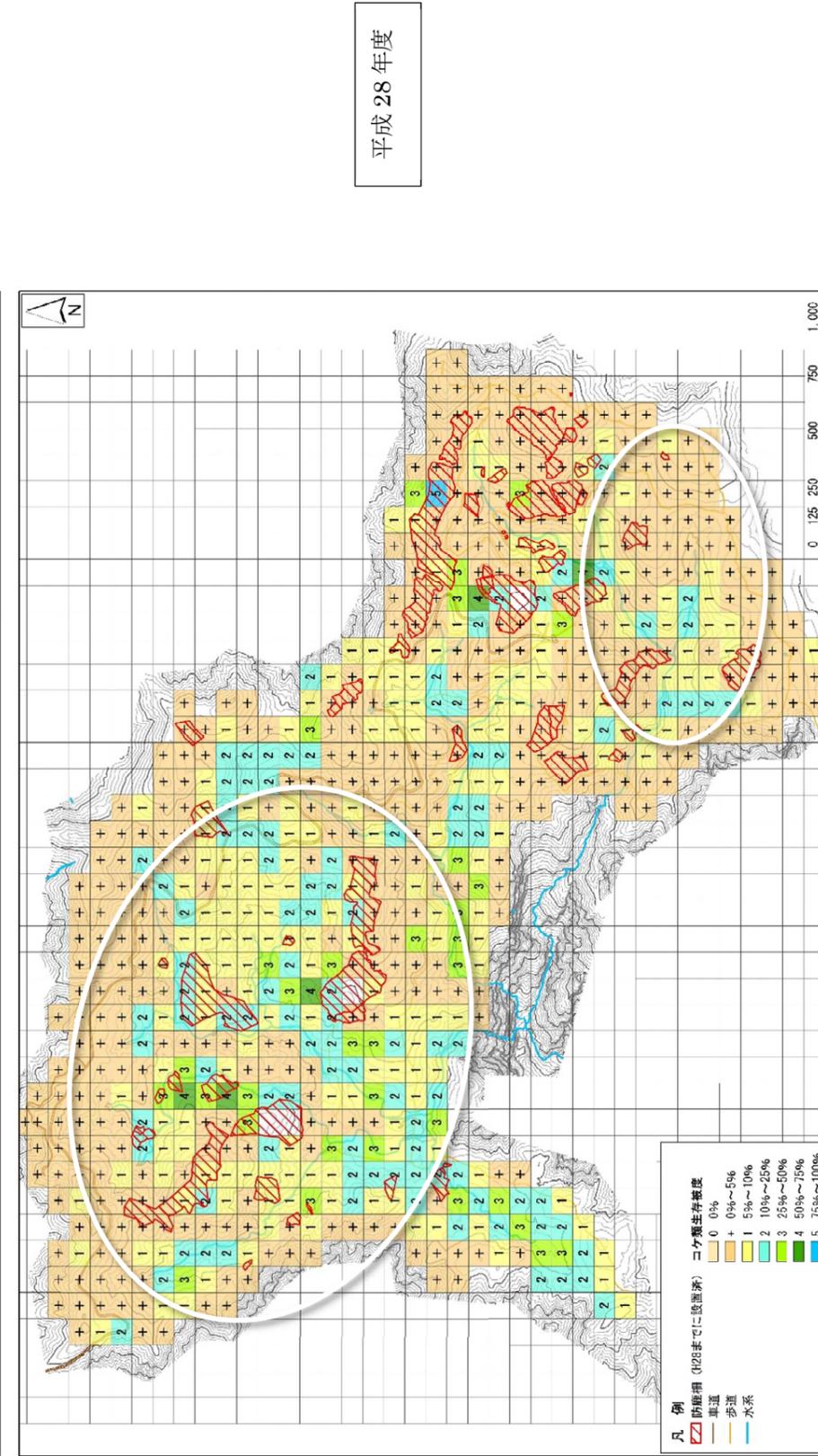
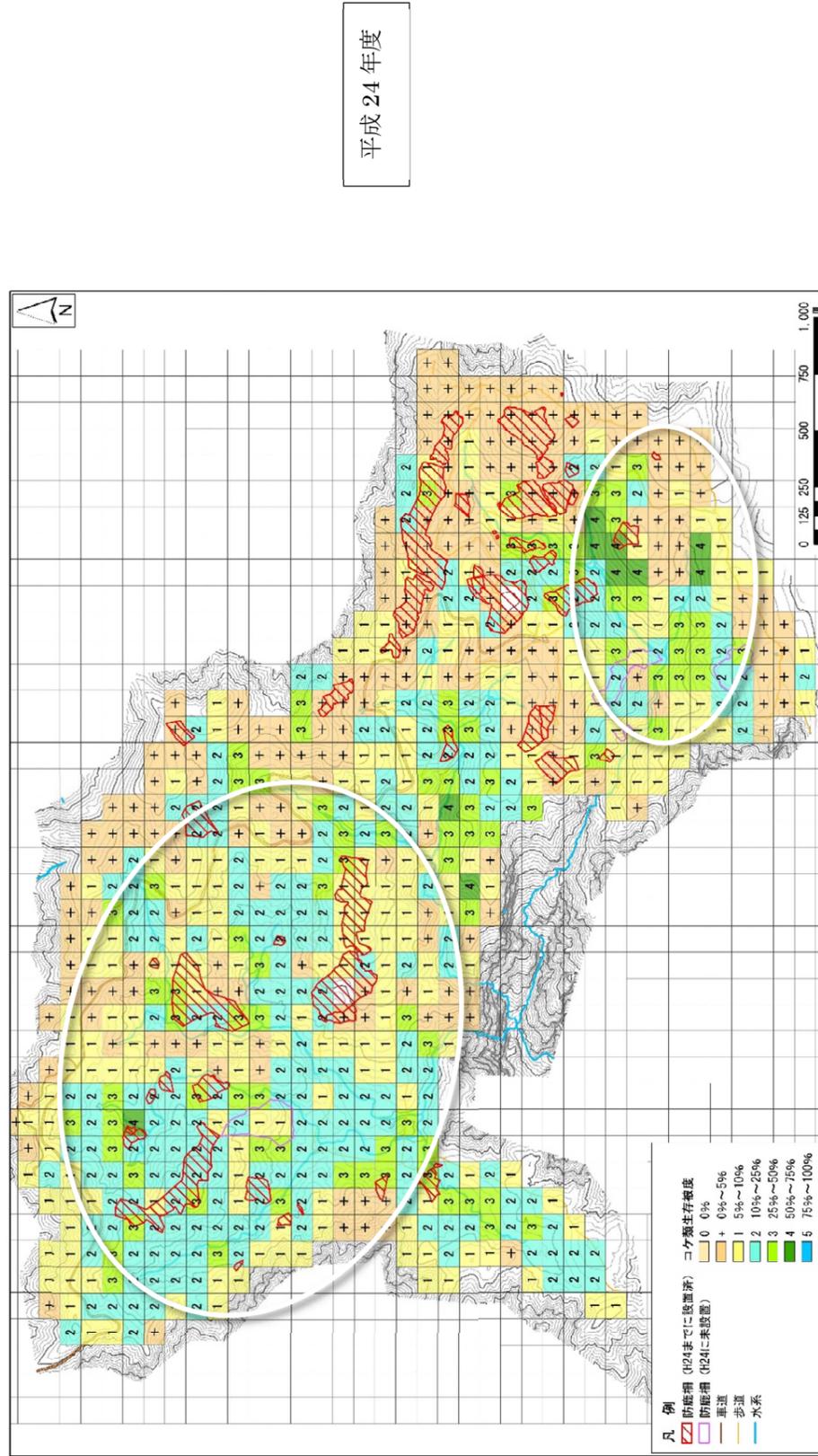
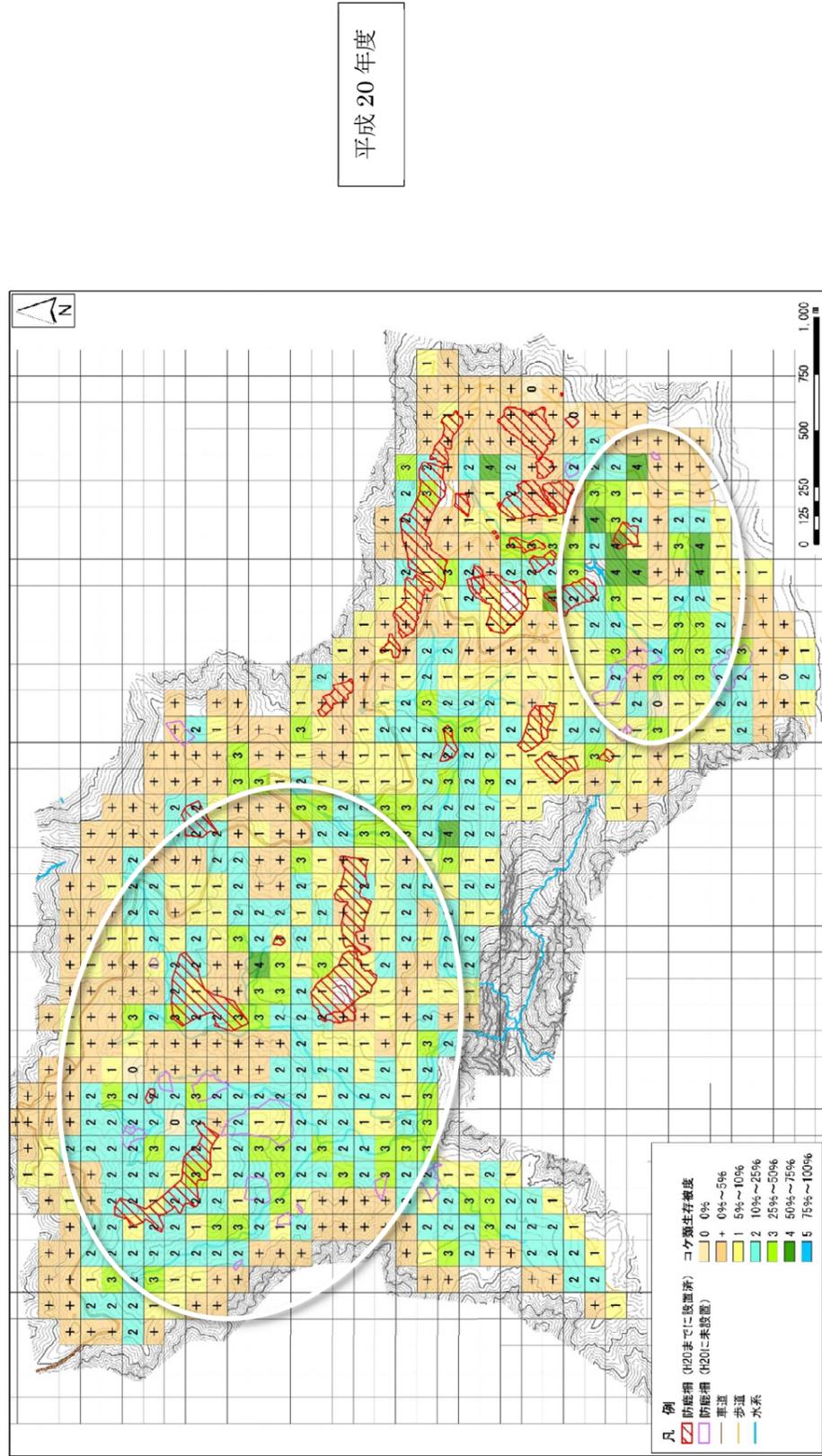


図 5 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるコケ類の被度クラス分布

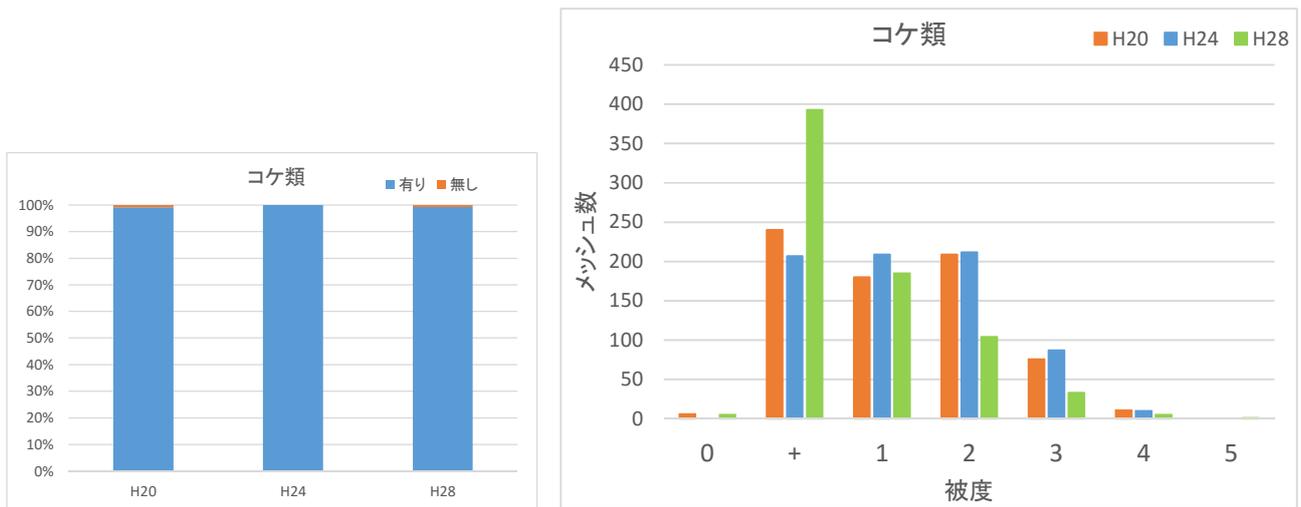


図6 コケ類が確認されたメッシュの割合の変化と被度クラス別メッシュ数の変化

## 2) ササ類の稈高の変化

平成20年度、24年度、28年度の防鹿柵外におけるササ類の平均稈高を図7に、稈高の階級分布の変化を図8に示した。

平成20年度からの防鹿柵外のササ類の稈高の主な変化を以下にまとめた。

- ミヤコザサ、スズタケともに稈高は上昇している。(図7)。
- 平成28年度には稈高が10cm以下のメッシュはほとんど見られなくなった(図8)。
- 平成24年度まではほとんど見られなかった稈高が100cmを超えるスズタケの確認メッシュが平成28年度には増えてきている(図8)。

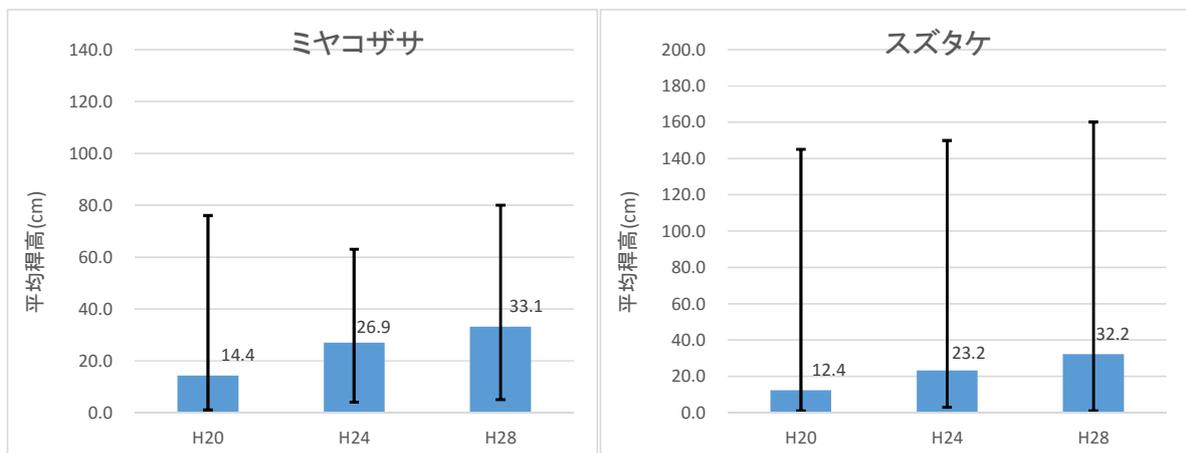


図7 平成20年度、24年度、28年度の防鹿柵外におけるササ類の平均稈高

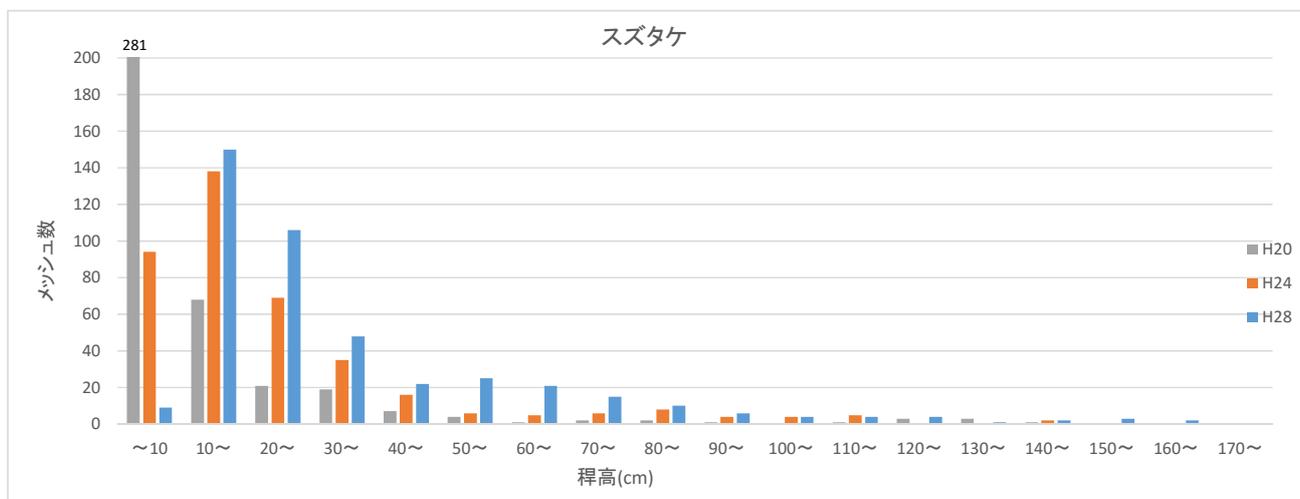
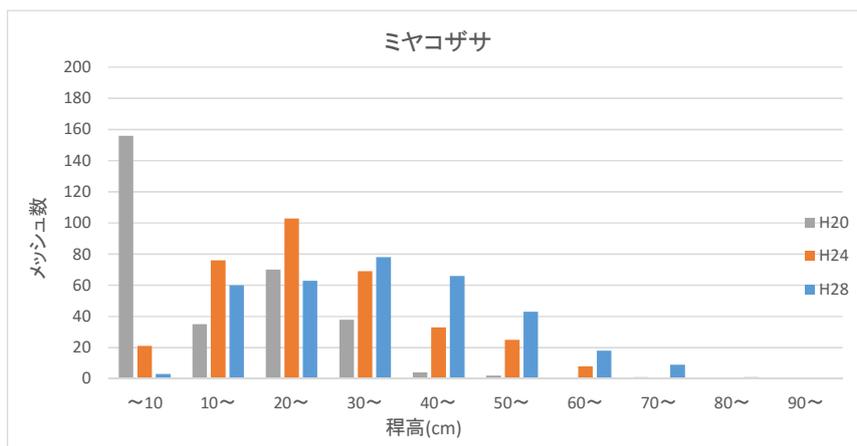


図 8 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるササ類の稈高の階級分布の変化

## (2) 防鹿柵内における下層植生の変化

### 1) 被度の変化

#### ①ミヤコザサ

平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵内におけるミヤコザサの被度クラス分布を図 9 に示した。

平成 20 年度からの防鹿柵内のミヤコザサの被度の主な変化を以下にまとめた。

- 東大台では防鹿柵設置済みの箇所は被度が高いメッシュがほとんどであるが、シオカラ谷の防鹿柵内ではミヤコザサの被度は低いままである。
- 西大台では七ツ池の防鹿柵内でミヤコザサの被度が上昇しているが、経ヶ峰下の防鹿柵(植生タイプⅦ)やコウヤ谷、七ツ池下の多様性保護柵内ではミヤコザサの生育はほとんど確認されていない。

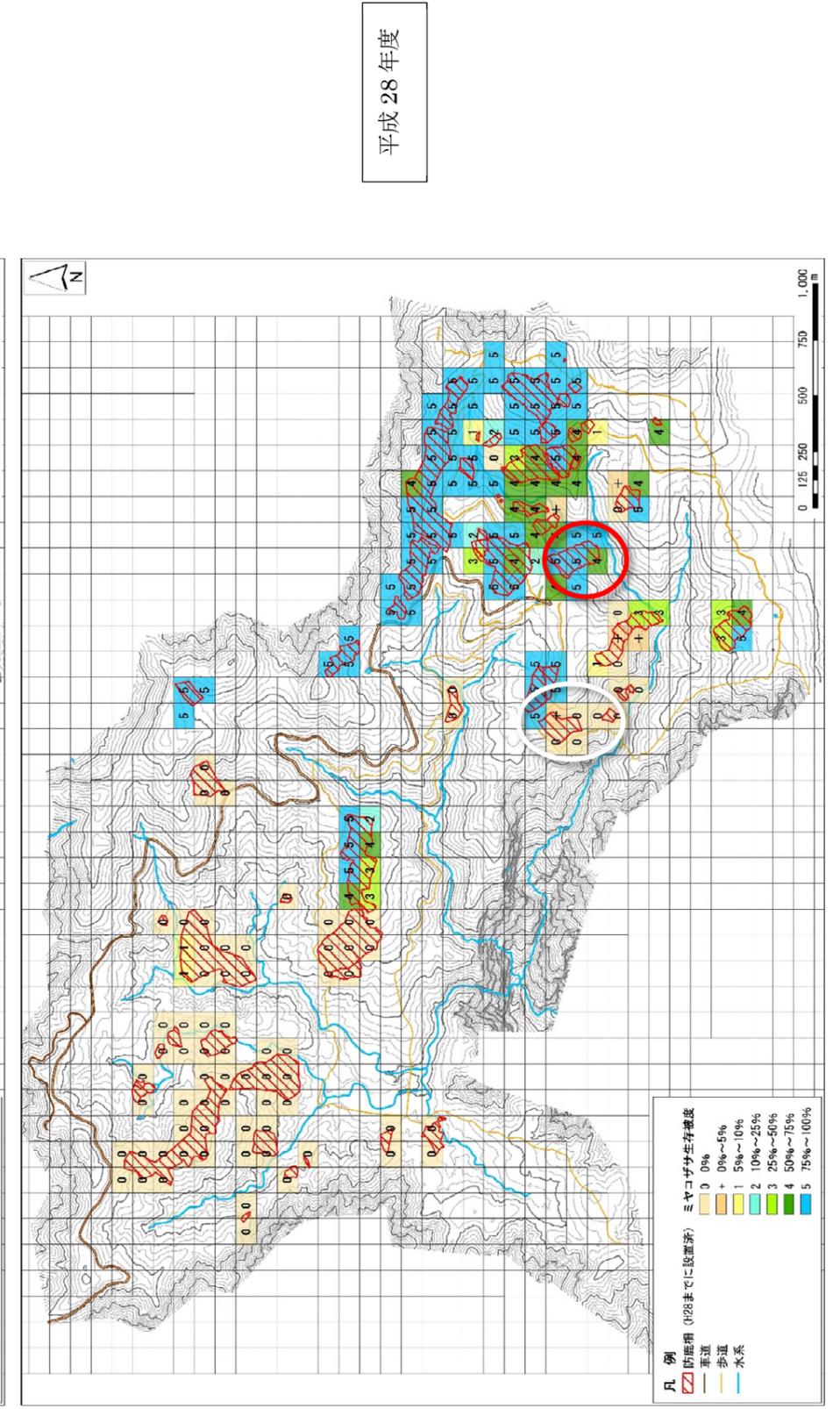
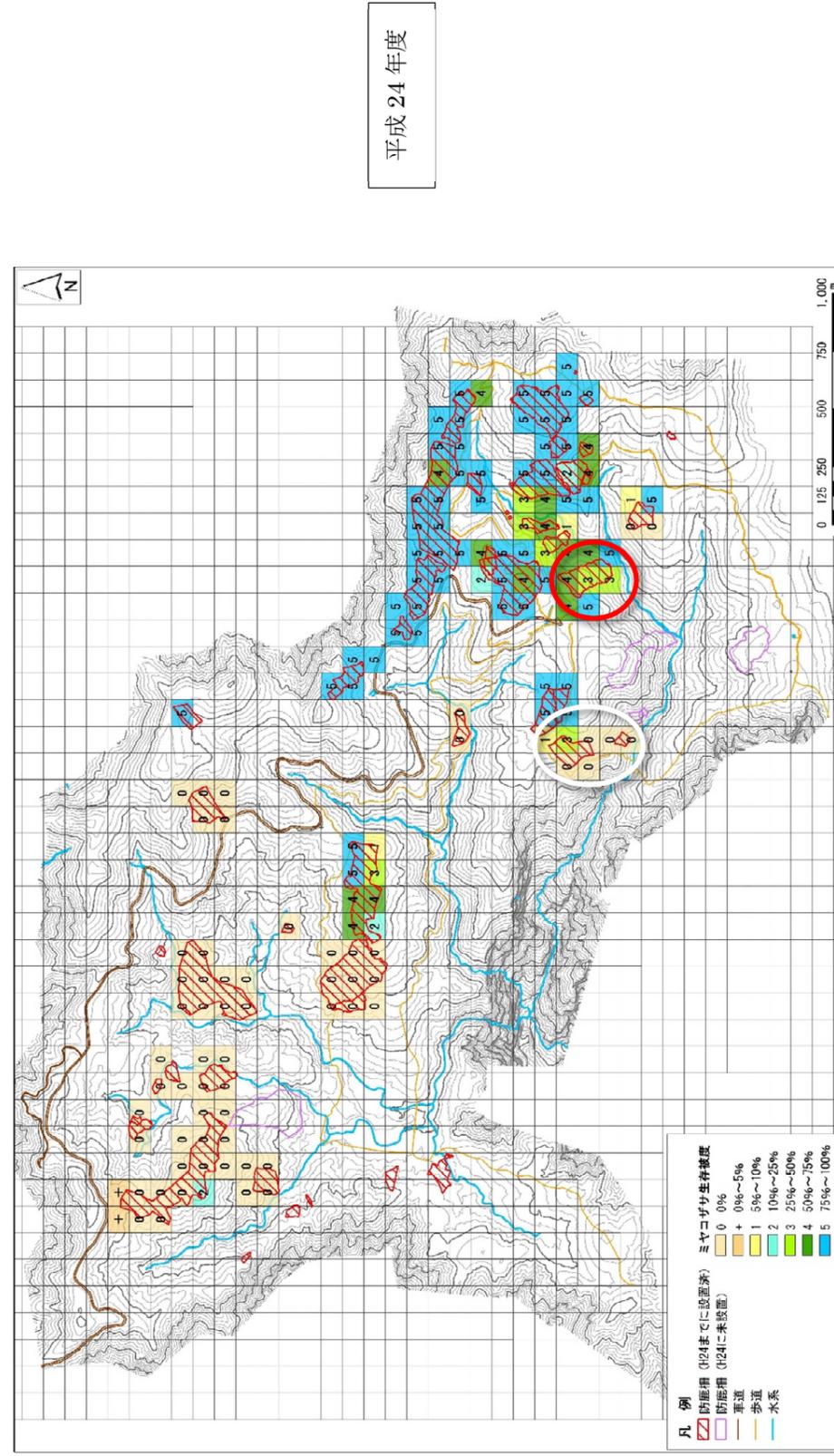
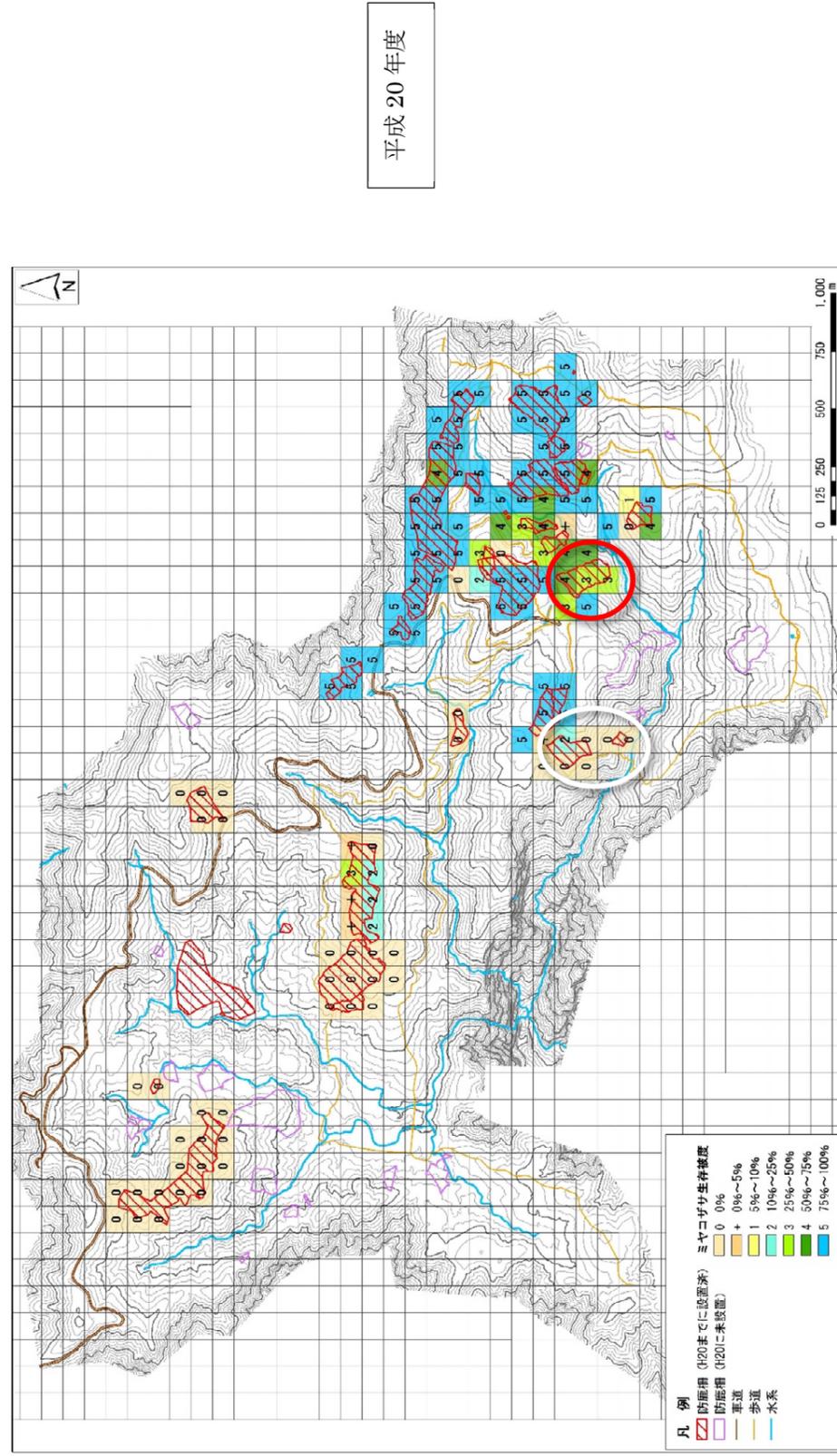


図9 平成20年度、24年度、28年度の防鹿柵内におけるミヤコザサの被度クラス分布